

東京家政学院短大 今井 弥生

1. 婦人服における用途別の色彩嗜好を明確にするために、今回はドレスの色彩嗜好に関する動態統計を行なった。この研究は従来、色研記号に基づいて調査していたが、調査用カラーコードの発表を機会に、9年にわたるデータを総合整理した。

2. 対象は当短大生2757名で、1955～1964年の期間に計18回実施した。調査には日本色彩社発行の97標準色を用い、質問紙法により色名を3色記入させた。

4月・2月を年度ごとにわけて色名別に集計し、調査用カラーコードの系統色名に分析して嗜好率をみた。

3. 嗜好率の高い系統はダーク・ブルー系・スカイ系であり、常時10%を越している。ブラック系は'56年、レッド系は'57年をピークとして徐々に低下している。反対にイエロー系は'62年、ライト・グリーン系・ターコイズ系・レッド・パープル系は'64年をピークとした。ベージュ系・ブラウン系・メディウム・グレー系は中間にピークがみられた。なお、4月にはイエロ系・スクイ系・ホワイト系、2月ではレッド系・ブルー系・レッド・パープル系がやや多く選ばれた。

トーン別にはチントとシェードが交互に出現している。

概してチントは4月に、シェード・モダレートは2月に多い。また、ピュア・グレイッシュは並行している。

この年代では最近、特に流行色傾向に関心が強く、常に鋭い意見をもって消化していることがわかった。